

編集後記

この号が発行される頃は第28回日本リハビリテーション医学会も終わり、ヤレヤレと一息ついていることであろう。

今回の特集のテーマは「嚥下障害」である。私が学生の頃には、嚥下障害は悪性腫瘍を除けば、薬物や火傷による瘢痕が主な原因で、外科で講義を受けたことを覚えている。それとは全く関係のない状態がリハビリテーション医学の分野で問題になっている。そこで、この方面に積極的に取り組んでおられる方々に御執筆をお願いしてこの特集ができた。

まず舩屋氏の「嚥下の生理」は大変興味深い。食道内圧の変化、一次嚥下と二次嚥下、第1相の受容器が歯や舌にある圧受容器で、第2相の受容領域であることなど、また嚥下中枢の項では、両側の破壊で嚥下反射が消失することなど、いちいち思い当たったり頷いたりすることばかりである。

稲田氏らの「嚥下障害の診断」は、誤嚥の病態による分類や嚥下障害の評価など臨床で嚥下障害と戦っておられる方には興味深く、成績によって力づけられる方も少なからずいるに違いない。また videofluorography の説明は実地的である。

本多らによる機能訓練は、私も日常接する機会があり、興味深く見ていた。体位の問題や周囲の環境などが影響しやすく、集中力、スタッフの忍耐強さなど、なるほど

と思うものや、あまり関心のなかったことなど、読んでいて苦勞のほどが誌面より感じられる。

才藤氏らの「脳血管障害による嚥下障害とリハビリテーション」は、実はもう少し誌面があったほうがよかったのではないかなと思っている。しかし、要領よく問題点をまとめていただいた。

江口氏らの「小児の嚥下障害とリハビリテーション」は、成人のそれと比較しながら読み、大変参考になった。特に「小児の dysphagia と訓練のために」を参考とする方が多いのではなからうか。

また、本号には梶浦氏によるボバース夫妻の追悼が掲載されている。中枢神経障害に対するボバース法の出現は、薄明かりの中にあった脳性麻痺治療の世界に大きな灯し火をつけたと言える。RIP などは、私が若かった頃にはまるで魔法のように感じられたものである。慎んで御夫妻の御冥福をお祈りしたい。

本号には研究と報告2編、症例報告、調査、短報各1編の投稿と、「ひと」では昨年度の高木賞を受賞された村地俊二先生の紹介、さらに講座、実践講座、一頁講座、学会報告など、多彩かつ盛沢山な内容が掲載されている。厳しい眼をお持ちの読者の皆様にも満足していただけるものと思う。

(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
河 邨 文 一郎
五 味 重 春
津 山 直 一
土 屋 弘 吉

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
緒 方 甫
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
横 山 巖

編集同人

今 田 拓
江 口 壽 榮 夫
大 橋 正 洋
小 川 孟
荻 島 秀 男
奥 川 幸 子
落 合 芙 美 子
加 倉 井 周 一
古 賀 唯 夫
小 島 蓉 子
近 藤 徹
齊 藤 正 也
笹 沼 澄 子
澤 村 誠 志
高 橋 勇 吉
高 松 鶴 吉
武 智 秀 夫
田 中 信 行
土 肥 信 之
土 肥 豊
中 村 隆 一
奈 良 勲
野 島 元 雄
野 村 歡
初 山 泰 弘
福 井 園 彦
福 田 道 隆
村 上 恵 一
矢 谷 令 子
渡 辺 英 夫
(五十音順)

総合リハビリテーション (第19巻 第6号)

1991年6月10日発行 (毎月1回10日発行)

1部定価 1,906円 (本体1,850円)

(配送料61円)

(年ぎめ予約購読料 24,420円
(本体23,709円、ただし増大号を含む)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 社内案内 (03) 3817-5600

本誌編集室直通 (03) 3817-5704

(担当: 佐々木・細田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 三報社印刷(株): 電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (株)東広社: 電話 (03) 3409-8803

- Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku Tokyo © 1991, Printed in Japan.
- 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。
- 無断で複写・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。